

- 問1 奈良時代、中央政府は地方の支配を強化するため、諸国に対してその地域の情報をまとめた報告書を提出させました。各地域の産物、土地の肥沃（ひよく）さ、地名の由来、そして古くから伝わる伝承などが記録されたこの書物を何といいますか。（2021年 鳥取県公立入試 類似）
- 万葉集
 - 古事記
 - 日本書紀
 - 風土記
- 問2 聖武天皇が、都に東大寺を、全国に国分寺や国分尼寺を建立することを命じた背景にある目的として、最も適切な説明はどれですか。（2022年 香川県公立入試 類似）
- 墾田永年私財法によって得られた余剰資金を管理する拠点を作るため
 - 仏教の力を用いて、疫病や災害などの社会不安を解消し、国家の安定を図るため
 - 遣唐使を廃止し、日本独自の国風文化を全国に浸透させるため
 - 地方の豪族を仏教勢力として組織化し、武力によって蝦夷を制圧するため
- 問3 古代の九州北部に設置された大宰府の役割と、その背景について述べた文として最も適切なものはどれですか。（2022年 山形県公立入試 類似）
- 朝鮮半島や大陸との外交窓口としての役割と、防人の配置などを通じて国防上の拠点を兼ねていた。
 - 明治政府が北方の警備と開拓を同時に行うために設置し、屯田兵を配置した。
 - 鎌倉幕府が御家人たちの間で起こった土地に関する訴訟を裁決するために設置した。
 - 東北地方の蝦夷（えみし）に対抗するための軍事拠点として、鎮守府とともに設置された。
- 問4 743年に「墾田永年私財法」が施行されたことにより、その後の日本の社会に現れた大きな変化として正しいものはどれか。（2024年 静岡県公立入試 類似）
- 班田収授の法がより厳格に守られるようになり、農民の間の貧富の差が完全に解消された。
 - 天皇による直接支配が全国の隅々まで行き渡り、武士という新しい階級が登場する余地がなくなった。
 - 土地の私有化が進んだ結果、米で納める「租」の制度が廃止され、全ての税が貨幣で納められるようになった。
 - 経済力を持つ貴族や寺院が大規模な開墾を行い、のちに「荘園」と呼ばれる私有地が広がる原因となった。
- 問5 聖武天皇が「大仏造立の詔（みことり）」を出した目的と、その後の社会への影響について説明した文として最も適切なものはどれですか。（2023年 鳥取県公立入試 類似）
- 仏教の力で社会の不安を払拭しようと考え、国家的な大事業を通じて中央集権体制の強化を図った。
 - 蘇氏などの有力豪族の勢力を抑えるため、天皇自らが僧侶となって政治の全権を握ることを宣言した。
 - 遣唐使を廃止して日本独自の文化を発展させるため、大陸の影響を受けない巨大な建造物を計画した。
 - 班田収授法を廃止して私有地を認める代わりに、農民から寄付を募って寺院を建立させた。
- 問6 奈良時代以降、人口の増加にともない口分田が不足し、班田収授法を維持することが困難になりました。これに対処するために出された、新しく開墾した土地の永年私有を認める法律を何といいますか。また、この法律が歴史に与えた影響について述べたものを選びなさい。（2018年 大阪府公立入試 類似）
- 「墾田永年私財法」により、公地公民の原則が崩れ、貴族や寺院による荘園開発が進むきっかけとなった。
 - 「新田開発令」により、すべての農民に新しい土地が平等に分配され、班田収授の仕組みが強化された。
 - 「三世一身の法」により、三代にわたる私有が認められたことで、口分田の返還が完全に行われなくなった。
 - 「大宝律令」により、土地の売買が自由化され、農民が自らの土地を自由に処分できるようになった。
- 問7 大宝律令の制定によって確立された「公地公民」の原則に基づき、当時の人々の生活や税制について述べたものとして正しいものはどれですか。（2016年 岩手県公立入試 類似）
- 大名に参勤交代を義務付け、その領地で収穫される米の量を石高として登録した。
 - 有力な農民に名主としての権利を認め、年貢の納入を請け負わせる名主制を導入した。
 - 検地を行い、農地を実際に耕している農民を土地の所有者として認め、地租を課した。
 - 戸籍を作成して人々に口分田を与え、代わりに租・庸・調などの税を課した。
- 問8 聖武天皇が752年に東大寺の大仏を完成させ、また全国に国分寺や国分尼寺を建立した目的について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2019年 香川県公立入試 類似）
- 仏教の力によって社会の不安を鎮め、国家の平安を願うため。
 - 巨大な建築物を作ること、大陸の諸国を威嚇し外交を有利にするため。
 - 貴族や豪族の富を特定の寺院に集め、その権力誇示に利用するため。
 - 武力を補完するために僧兵を組織し、地方の反乱を制圧するため
- 問9 8世紀の奈良時代、唐から日本へ渡る際に5度の失敗と失明という困難を乗り越えて来日し、日本の僧侶に正しい規律を授ける制度を整えた人物は誰ですか。（2023年 熊本県公立入試 類似）
- 空海
 - 鑑真
 - 最澄
 - 行基
- 問10 710年に現在の奈良県に遷都された平城京は、当時の東アジアにおいて強大な影響力を持っていたある国の都をモデルに設計されました。そのモデルとなった国の名前と、都の名称の正しい組み合わせを選びなさい。（2024年 岐阜県公立入試 類似）
- 隋の大興城
 - 唐の洛陽
 - 隋の長安
 - 唐の長安
- 問11 奈良時代に編纂された歴史書である『日本書紀』の説明として、記述の形式や内容に合致するものを次の中から選びなさい。（2017年 京都府公立入試 類似）
- 地方の産物や地理、伝承をまとめて政府に報告するために作られた。
 - 出来事を年代順に記述する「編年体」という形式で書かれている。
 - 日本に現存する最古の歌集であり、防人の歌などが収められている。
 - 稗田阿礼が読み上げた内容を太安万侶が筆録したものである。
- 問12 律令制のもとで、正丁（成人男性）に対して課せられた負担のうち、布や絹、あるいは各地の海産物や塩といった特産品を都まで運んで直接納めることとされた租税の名称を選びなさい。（2026年 滋賀県公立入試 類似）
- 調
 - 租
 - 雑徭
 - 庸
- 問13 聖武天皇が平城京に東大寺を建立し、金堂内に銅で作られた巨大な大仏（盧舎那仏）を造立した目的として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 富山県公立入試 類似）
- 遣唐使の派遣を停止し、大陸の影響を受けない日本独自の文化を確立するため
 - 藤原氏などの有力貴族の勢力を抑え、天皇による中央集権体制を誇示するため
 - 仏教の力に頼ることで、疫病や社会の混乱を鎮め、国家の安泰を願うため
 - 武士の台頭に対抗するため、寺院に独自の軍事力を持たせて都を警護させるため

答え合わせ・解説

問1	答え 4 風土記	奈良時代初期の713年、元明天皇の命によって諸国に編纂（へんさん）が命じられました。地方の状況を詳しく把握し、税収や統治に役立てる目的がありました。現在は「出雲国風土記」がほぼ完全な形で残っているほか、数力国の写本が伝わっています。
問2	答え 2 仏教の力を用いて、疫病や災害などの社会不安を解消し、国家の安定を図るため	当時の社会は天然痘の大流行や凶作、貴族間の対立といった困難に直面していました。聖武天皇はこれらの社会的な混乱を解決するために仏教を重視し、国家の安泰を祈願して大仏の造立や全国的な寺院建立を行いました。これは宗教的な権威によって天皇を中心とする統治体制を強化する狙いもありました。
問3	答え 1 朝鮮半島や大陸との外交窓口としての役割と、防人の配置などを通じた国防上の拠点兼ねていた。	白村江の戦いでの敗北以降、律令国家は唐や新羅からの侵攻に備える必要がありました。大宰府は、現在の福岡県付近という大陸に近接した立地を活かし、使節を迎え入れる外交機能と、水城（みづき）や大野城などの防衛施設を管理する軍事機能を併せ持っていました。
問4	答え 4 経済力を持つ貴族や寺院が大規模な開墾を行い、のちに「荘園」と呼ばれる私有地が広がる原因となった。	土地の私有が認められたことで、豊富な資金や労働力を動員できる有力な貴族や寺院がこぞって開墾を進めました。これが「初期荘園」の形成につながり、国家が直接土地と人民を支配する体制が徐々に形骸化していくことになりました。
問5	答え 1 仏教の力で社会の不安を払拭しようと考え、国家的な大事業を通じて中央集権体制の強化を図った。	聖武天皇は、地震や天然痘の流行といった国難を仏教の信仰によって乗り越えようとししました。この巨大プロジェクトには膨大な労働力と物資が投入され、山口県の長登銅山から銅を運ぶなど、全国規模の協力体制が敷かれることで、天皇を中心とする国家体制が象徴されました。
問6	答え 1 「墾田永年私財法」により、公地公民の原則が崩れ、貴族や寺院による荘園開発が進むきっかけとなった。	当初は「公地公民」を原則としていましたが、人口増による土地不足を解消するため、743年に「墾田永年私財法」が制定されました。これにより、自分で新しく切り拓いた土地は永久に自分のものにできるようになったため、財力のある貴族や寺院が大規模な開墾を行い、「荘園」と呼ばれる私有地が拡大することとなりました。その結果、土地を国が管理して配分する口分田の仕組みは次第に機能なくなっていきました。
問7	答え 4 戸籍を作成して人々に口分田を与え、代わりに租・庸・調などの税を課した。	律令制度のもとでは、土地と人民はすべて国家のものとする「公地公民」の考え方が徹底されました。これに基づき、6歳以上の男女に土地を貸し与える「班田収授法」が行われ、戸籍によって管理された人民には、稲を納める「租」や、地方の特産物を納める「調」などの重い負担が課せられました。
問8	答え 1 仏教の力によって社会の不安を鎮め、国家の平安を願うため。	聖武天皇が発した「大仏造立の詔」や「国分寺建立の詔」には、仏教の教えによって人々の心を一つにし、国全体を正しい道へ導くという鎮護国家の狙いが込められています。これは単なる個人の信仰や権力の誇示ではなく、疫病や反乱といった当時の厳しい社会情勢を打開するための国家プロジェクトとしての側面を持っていました。
問9	答え 2 鑑真	唐出身の僧である鑑真は、日本の僧からの強い要請を受け、正式な僧侶となるために必要な「戒律」を伝えるために来日しました。彼は奈良に唐招提寺を建立して律宗の開祖となり、日本の仏教制度の基礎を築きました。最澄や空海は平安時代初期の僧であり、行基は東大寺の大仏建立に協力した僧です。
問10	答え 4 唐の長安	平城京は、元明天皇の時代の710年に、それまでの藤原京から遷都して造営されました。この都は、当時、東アジアの政治・文化の中心として栄えていた唐の都である「長安」をモデルとして設計されており、碁盤の目のように区切られた整然とした街並みが特徴です。当時の日本は遣唐使を派遣し、大陸の進んだ制度や文化を積極的に取り入れていました。
問11	答え 2 出来事を年代順に記述する「編年体」という形式で書かれている。	中国の歴史記述の方式を取り入れ、神代から持統天皇までの出来事を時系列に沿って記録しています。選択肢にある稗田阿礼や太安万侶が関わったものは『古事記』、歌集は『万葉集』、地方の記録は『風土記』を指します。
問12	答え 1 調	律令制における「調」は、各地の特産品を中央政府に納める税です。これに対して「租」は収穫した稲を納めるもの、「庸」は都での労役の代わりに布を納めるものを指します。調は納税者が自ら都まで運ぶ必要があったため、農民にとって非常に重い負担となりました。
問13	答え 3 仏教の力に頼ることで、疫病や社会の混乱を鎮め、国家の安泰を願うため	聖武天皇が発した「大仏造立の詔」には、広く国民の協力を得て仏教の力で世の中を安定させたいという願いが込められていました。当時は天然痘などの疫病が猛威を振るい、多くの犠牲者が出ていた背景があります。この巨大な造立事業には、政府から弾圧を受けていたものの民衆から絶大な支持を得ていた僧の行基も協力し、国家的なプロジェクトとして進められました。